



ペテロ行

2017年6月1日発行
(毎月1日発行)

谷山カトリック教会

891-0113
鹿児島市東谷山2-33-13
TEL 099-268-2084
FAX 099-284-5738

E-Mail: taniyama-cc@lagoon.ocn.ne.jp URL: http://www5.ocn.ne.jp/~tycc/

発行人: 頭島 光 神父 編集委員: 太田勇二郎 Sr.下川千穂子 岸誠之助

「共に暮らす家」

フランシスコ教皇様の回勅、『ラウダート・シ』(‘Laudato Si’, 略してLS.)は「讃えられよ。我が主！」という意味です。そこに私たちのテーマである「ともに暮らす家を大切に！」という副題があります。地球環境の問題はもはやただ単なる自然破壊ではなく、これ以上、人類が環境を破壊し続けるなら、それは「私たち自身に対する罪であり、神に対する罪だ」(LS.No.8 参照) と言うのです。これら自然環境の破壊はもはや付け焼刃的な対症療法では何の解決にもなりません。「消費の代わりに犠牲、食欲の代わりに寛大さ、そして浪費の代わりに分かち合い」(LS.No.9 参照) という心の姿勢こそ大切と言います。既に無差別テロに歯止めが利かなくなったように、この地球に果たして幸せな未来、平和への道が見いだせるでしょうか。今後、我々は何を大切にし、また誰と共存して生きるのでしょうか。

◆ 傷つけられた環境

教皇様は、この回勅の中で「世界に何一つ無関心でいられるものはない」(LS.No.3 参照) と断言します。私たちも「環境を大切に！」と日常生活、また地域社会において様々な取り組みを展開しています。しかし、現代世界で起こっている様々な自然現象は、私たちの予測を遥かに超えて深刻な打撃を与えています。自然環境の変化は、私たちの日常生活を脅かすだけでなく、大きな不安をあとに残していきます。そこで、この地球という私たちの「家」が、これまでどんなに悲惨なダメージを受けてきたかを見つめてみましょう。つまりこの「家」は、元々、実に多種多様な生命体によって埋め尽くされ、生き活きたした生の営みの中にあつたのです。ところが、人間は自分たちのエゴのために住みやすい社会と世界に作り変えるために、これらを破壊し、またある時には人種、国籍、宗教、文化さえも排斥したのです。自然

の賜物であるエネルギーを従わせ、一方的に支配し、破壊したのです。結果、これらの環境を取り巻く生態系は壊滅的危機に瀕し、人の生活空間さえ奪う甚大な損害と痛手を被ったのです。

◆ 新しい対話

さて、私たちは傷つき、痛みつけられた「家」に心を寄り添わせ、少しでもその苦しみを和らげるため、何かを始めるべきです。それは対話です。この「家」に生き続けるために、耳を澄ませて新たな対話の必要性が求められています。この新たな対話への試みは心無い人々によって、これまで何度も数々の妨害と無関心

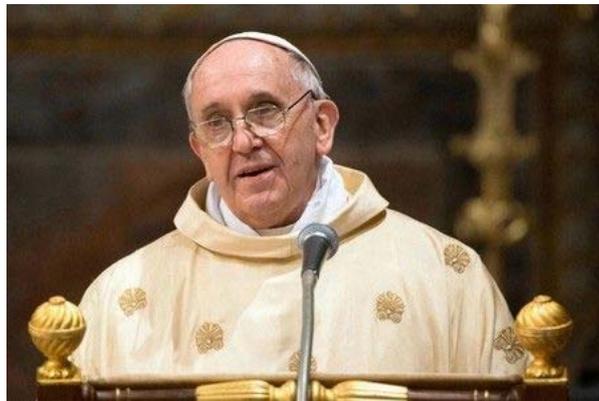
によって挫かれてきました。しかし、今こそ新たな連帯が必要です。対話のための新たな連帯が力を持てば、隣に住む人々と相互関係を構築し、人格を尊重しあうことで相互に配慮し合う姿勢を強めることができるはず。既に神の御業はすべての人に及び、「神の道具」として私自身を被造界に遣わし、他者を大切に

にし、世話をする力を与えているからです。きょう、あなたが目にしているものでさえ、既に神からのものであり、与えられたものなのです。言い換えれば、この「家」の生活のすべては神からの賜物であると気づき、共に分かちあいましょう。そこから新しい対話が始まります。

◆ いまは行動のとき

マリア様の月である5月は終わりました。でも、マリア様ほど行動的な女性はいません。ご自身も御子イエスを胎内に宿しながら自分より痛みの中にある身重なエリザベト叔母のことを気遣い、駆けつけたからです。どうか、自分の事よりもまず人の痛み、そして痛みを気遣う者となることができますように、聖霊の助けと恵みを祈り求めましょう。

主任司祭 頭島 光 神父



今月の聖人から 聖ボニファチオ司教殉教者

6月5日



ドイツのガイスマーのグデンベルグ山の頂上に、大きな樫の木があって、異教徒たちは「雷神トール」の宿る神木として礼拝していた。

そこへボニファチオが来てその木を切り倒すことを告げたので、大勢の異教徒たちは、彼が雷神に殺されるのを見ようとして集まった。

ボニファチオが斧をいれるやいなや、樫の木は四つに割れて大地にたおれてしまった。驚いた異教徒の多くの人々は、それがきっかけとなって、キリスト信者に回心した。彼は樫の木で小聖堂を造って聖ペトロに捧げた。

ボニファチオは680年頃、イギリスのクレディンで生まれ、ウィンチェスターの近くの修道院付属の学校で教育を受けた。722年教皇グレゴリオ2世によってドイツの司教として叙階され、目覚ましい活動を続けた。

チューリングンのオードルフに修道院を建てた後、ババリアに移って、宣教修道院を設立した。735年には、最も有名なフルダ修道院を建て、ドイ

ツの宗教、学問、芸術などの文化活動の中心地となした。

747年教皇はボニファチオをドイツの大司教に任命し、教皇使節としてゴールへ送った。754年春、52人の宣教師と共に働いたが、活動半ばにして教敵に襲われ殉教した。

Taniyama CC NEWS

5月7日



平井真吾・祐香さんご夫妻の次男、千裕ちゃんの洗礼式がありました。霊名はフランシスコ・ザビエルです。お健やかに成長されますように。

5月27日

セバスチアノ生駒博さんが天に召され(26日)、午後2時から告別式が行われました。享年69歳。ご冥福を祈ります。

維持費袋

「私たちの教会は
私たちの手で」

教会維持費を負担することは
私たち信者の義務です。
各々の分に応じて捧げましょう。

教会維持費

各自が分に応じて毎月一定金額を教会運営・管理と宣教師などの経費のために捧げる献金です。初物を捧げる心で日々献金しましょう。

施設営繕費

聖堂や信徒会館等の建物の修理、設備の拡充、備品の購入などのための献金です。

神学生養成費

司祭を目指す神学生の育成のための献金で全額教区へ送金されます。



ムイベルガ神父のアンテナ

マルチン・ルーテル

今年、プロテスタント教会の信者たちが特別な記念祭を行います。500年前に、カトリック教会の神父だったマルチン・ルーテル(1483-1546)はローマから離れてプロテスタンティズムⁱの霊的な指導者になりました。彼は教会を改めたいと願いましたが、彼の改新は革命に変わりました。

では、マルチン神父はどのような人物だったのでしょうか。画家ルカス・クラナハ(1472-1553)の絵画のおかげでルーテルの顔貌は今日良く知られています。彼の顔の特徴は、出っ張る頬骨や、広くてずんぐりした鼻、ほっそりした唇、はっきりしたあごに見られます。



ルーテルは1512年に神学博士になりましたが、クラナハはその時の神父を従順な修道者として表現しています。しかし、1517年若い博士は教会の改正についての提題を発表し、その3年後、Katharina von Boraと結婚しましたが、この三年間のルーテルの肖像画は厳しい顔をしています。画家は、描く人物の性格や精神的な状態を描いて見せませんが、その人の全ての歴史を一つの肖像画に書き込むことは出来ません。そういう訳で、もう少し彼の足跡を辿ってみましょう。

1505年彼はアウグスチノ托鉢修道会に受け入れられるように願いました。その理由は誓いを立てたことによりますが…、エアフルトに行った時突然近くの木に落雷がありました。度肝を抜かれたルーテルは「聖アンナ、助けて下さい、助かったら神父になります」と誓いました。父親の望みを無視して法学の勉強を中断し、21歳の時

に神学の勉強を始めました。神学生時代や神父になってからも、彼は熱心な、責任を持って修道生活の義務を果たす人という評判がありました。しかし、何年間の後、この厳しい生活を一生続ける力は持っていなかったと白状しています。ルーテルの書物から引用されている言葉にも、この彼の霊的な状態を表しています。「この厳しさが長く続けば、私は死にそうになった」「毎日眠らずに番をして、祈って、霊的読書や仕事をして」「かわいそうな修道者は」「神聖さと純潔があってもどうなるのでしょうか」。彼がこのような気持ちになったとしても、不思議なことではなかったのです。彼は精神的な悩みのために、前よりも聖書を熱心に読みました。何故なら、正義の神だけでなく、哀れみ深い父である神を見出したかったからです。修道会の総代理、ヨハンネ・スタウピッツ神父もルーテルに聖書の勉強を勧めました。彼は旧約と新約のうちに、正義について話されている箇所を沢山見つけましたが、彼にとっては、いつも厳しい正義の神でした。



「聖パウロのローマの人々への手紙」を読んでから大切なことが分かるようになりました。すなわち、私たちは自分の努力によって義とはされていないのです。唯一の理由は神の哀れみです。なぜなら神の正義は神の憐れみだからです。イエス・キリストの命の犠牲によって罪びとに救いを与えたことが、この憐れむ正義を明らかにしています。私たちには、自分の努力によっての天国に対する請求権はないのです。しかし、神は私たちのところへ降りてきて、私たちを自分のところへ引き上げて下さいます。(以下次号へ)

ⁱ 16世紀の宗教改革に発して、カトリック以外のキリスト教諸教会の総称